

## 平成 25 年度

### 特別展 開館 15 周年記念「清方、美人画の巨匠へ」

清方は、人気挿絵画家として活躍していた明治末から日本画家を目指し、展覧会へ精力的に作品を発表し続けた。清方の優美な美人画の評価は高まり、昭和 29 年には文化勲章を受章している。

開館十五周年記念となる本展覧会では、鐮木清方の初期の秀作から、画壇で揺るぎない地位を築きあげた頃までの作品を中心に紹介した。

会期 平成 25 年 4 月 19 日(金)～5 月 22 日(水) (開館日数:31 日)

総入館者数 3,419 人(一日平均:110 人)

関連事業 「無料開館日(開館 15 周年を記念して)」

【日時】平成 25 年 4 月 18 日(木) 午前 9 時～午後 3 時

「鎌倉ミュージアムめぐり」スタンプラリー」

【開催期間】平成 25 年 4 月 6 日(土)～12 月 1 日(日)



### 関連記事

「鐮木清方記念美術館 清方、美人画の巨匠へ」(新美術新聞 3 月 21 日)

「鐮木清方記念美術館 特別展 開館 15 周年記念 清方、美人画の巨匠へ」(旅うらら 湘南鎌倉ガイドMAP 4 月 1 日)

「鐮木清方記念美術館 特別展 開館 15 周年記念 清方、美人画の巨匠へ」(あさひタウンメイト 4 月 5 日)

「鐮木清方記念美術館 明治から昭和を彩った美人画の巨匠の全貌を知る」(日経おとなの OFF 今行くべき美術館 4 月 6 日)

「鐮木清方記念美術館 特別展 開館 15 周年記念 清方、美人画の巨匠へ」(広報かまくら 4 月 15 日号)

「鐮木清方記念美術館 清方、美人画の巨匠へ開館 15 周年を記念し明治～昭和半ばの作品を紹介」(博物館研究 4 月 25 日)

「鐮木清方記念美術館 特別展 開館 15 周年記念 清方、美人画の巨匠へ」(読売新聞 5 月 10 日) 他

### 出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
八幡鐘図	明治 34 年(1901)	絹本着色・軸	106.0×40.5	逸翁美術館蔵
重陽佳節	制作年不詳	絹本着色・軸	129.0×41.5	木原文庫蔵
鏡獅子	昭和 9 年(1934)	絹本着色・軸	127.5×41.7	同上
花いはら	大正末期	絹本着色・軸	126.0×41.0	同上
道成寺	昭和 13 年(1938)	絹本着色・軸	124.0×36.0	同上
朝涼(ちょうりょう)	大正 7 年(1918)	絹本着色・軸(双幅)	(各)145.5×50.5	個人蔵
田舎源氏	昭和 24 年(1949)	絹本着色・額	52.0×50.0	個人蔵

### 【所蔵品】

「小楠公弁の内侍を救う」「寒月」「深沙大王」「田舎源氏」「子供二人」「二人静」「教誨」「曲亭馬琴」「栗をむく娘」「二人静」「秋草」「ほづき」「清子四歳像」「牡丹 一・二」「夏の思い出(1 図・2 図)」「にぎりえ 序文第 1 図～第 15 図」「京洛の花 肉筆回覧誌『紫紅』のうち」「春色嬋娟之図 肉筆回覧誌『美術くら編 まき乃三』の内」

『清方美人畫譜』 「幕間」「春雨の寮」「初雪」「五月雨」「午後海」「白壁」「青き星」「湖のほとり」「濱町河岸の秋」「島田くづし」

口絵 「春装」「さつき花」「さみだれ」「浴後 『文藝界』」「芝居茶屋の二階 『演藝倶楽部』」「渡邊霞亭著『渦巻 上編・中編』」「渡邊霞亭著『新渦巻 光子の巻』」

口絵原画 「三ツ股川の高尾」

『文藝倶楽部』口絵 「汐干狩」「いで湯の夕べ」「湯治場」「そぞろあるき」

『講談雑誌』口絵 「浮いて鷗の (清方畫譜の三)」「菖蒲湯」

## 特別展 鏑木清方生誕 135 年記念「初夏の風情—随筆『こしかたの記』とともに—」

清方は、春から夏へ移りゆく時期を一年で最も美しい時期だと述べている。その言葉に示されるように、初夏の風情を好んで描いた。また、晩年著した随筆『こしかたの記』では、清方の生い立ちとともに、自作を制作した当時を振り返っており、清方作品に対する理解を深めることができる。

本展覧会では、鏑木清方生誕 135 年記念として、『こしかたの記』に取り上げられていた、注目すべき清方作品とともに、初夏の情趣あふれる作品を紹介した。

会期 平成 25 年 5 月 25 日(土)～6 月 30 日(日) (開館日数:31 日)

総入館者 3,907 人(一日平均:126 人)



### 関連事業

美術講演会「鏑木清方の魅力—随筆『こしかたの記』について—」

【日時】平成 25 年 5 月 28 日(火) 午後 1 時 30 分～3 時 30 分

【講師】辻原 登氏(作家)

「鎌倉ミュージアムめぐり」スタンプラリー

【開催期間】平成 25 年 4 月 6 日(土)～12 月 1 日(日)

### 関連記事

「鏑木清方記念美術館 特別展 鏑木清方生誕 135 年記念 初夏の風情—随筆『こしかたの記』とともに—」(美じゃん新報 5 月 20 日)

「鏑木清方記念美術館 鏑木清方生誕 135 年記念 初夏の風情—随筆『こしかたの記』とともに—」(毎日が発見 6 月号)

「鏑木清方記念美術館 特別展 鏑木清方生誕 135 年記念 初夏の風情—随筆『こしかたの記』とともに—」(婦人画報 7 月号)

「鏑木清方記念美術館 初夏の風情 晩年の随筆に登場した日本画と初夏の名品を紹介」(読売新聞 6 月 4 日、11 日、18 日)

「鏑木清方記念美術館 特別展 鏑木清方生誕 135 年記念 初夏の風情—随筆『こしかたの記』とともに—平和の時代迎えた美人画」(読売新聞 6 月 6 日) 他

### 出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
春雪	昭和 21 年(1946)	絹本着色・軸	167.0×87.4	サントリー美術館蔵
江戸桜	昭和 7 年(1932)	絹本着色・軸	122.2×36.0	同上
小品集 草花風景	昭和 22 年(1947)	紙本着色	25.0×18.5	同上
スケッチ色紙				
合歓	昭和 10 年代後半	絹本着色・軸	120.0×27.5	木原文庫蔵
合歓の花	昭和 4 年(1929)	絹本着色・軸	144.0×51.0	木原文庫蔵
夕潮	制作年不詳	絹本着色・軸	115.0×36.0	木原文庫蔵
初夏の雨	昭和 10 年(1935)頃	絹本着色・軸	48.0×58.0	木原文庫蔵
吉野山(『苦楽』表紙絵原画)	昭和 23 年(1948)	絹本着色・額	27.9×26.6	木原文庫蔵
戻橋の小百合	大正 6 年(1917)	絹本着色・額	34.3×24.0	木原文庫蔵
(芝居十二ヶ月の内)(『新演藝』口絵原画)				
夏の朝(秋のおとづれ)	大正 4 年(1915)	絹本着色・軸	34.0×17.7	木原文庫蔵
明治風俗 すゞみ舟	昭和 15 年(1940)頃	絹本着色・軸	40.0×50.5	木原文庫蔵

#### 【所蔵品】

「暮れゆく沼」「一葉女史の墓」「山百合」「ふたつあちさみ」「鱧」「干物」「あじさい」

下絵 「春雪」「女役者条八」

スケッチ 「樋口家の墓」「花菖蒲」「紅花」

口絵 「村井弦斎『日の出島 朝日の巻』下巻」「潮田主水 有馬浴泉に遊ぶ」「小山内八千代『新緑』」「藤娘」「初夏の雨」「緑蔭」「大倉桃郎『不知火』」「梅雨晴(『文藝倶楽部』表紙絵)」「菊池幽芳『月魄 上巻 藤乃の巻』」「根本吐芳『黒胡蝶』」「柳川春葉『女一代』」

『苦楽』表紙絵:「牡丹」「花菖蒲」「たけくらべの美登利」

『こしかたの記』 書籍、表紙絵原画、「こしかたの記(一)～(六)(『中央公論』掲載)」「あじさい ゆかた意匠」「あじさい テーブルセンター」

## 収蔵品展 「清方が過ごした明治の風情」

江戸から明治に移り、文明開化の呼び声が高まると、東京に新しい文化が徐々に根付いていった。清方が育った京橋木挽町からさほど遠くない明石町は、外国人居留地として栄え、異国情緒漂う場所となった。しかし、銀座と明石町に挟まれた土地、木挽町では江戸の雰囲気色が濃く残る下町としての庶民の生活が営まれていた。清方はそのような深く心に刻まれた当時の風情を楽しんで描いてゆく。

本展覧会では、清方が好んだ明治東京の情趣をたたえた作品を紹介した。



会期 平成 25 年 7 月 4 日(木)～平成 25 年 8 月 25 日(日) (開館日数:46 日)

総入館者数 3,023 人(一日平均:65 人)

### 関連事業

「夏休み親子鑑賞」 会期中、小・中学生及び同伴者 1 名 観覧料無料

【開催日時】平成 25 年 7 月 4 日(木)～8 月 25 日(日)

「鎌倉ミュージアムめぐり」スタンプラリー

【開催期間】平成 25 年 4 月 6 日(土)～12 月 1 日(日)

### 関連記事

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展 清方が過ごした明治の風情」(『美じょん新報』第 165 号、6 月 20 日)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展 清方が過ごした明治の風情」(『広報かまくら』7 月 1 日号)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展 清方が過ごした明治の風情」(『旅うらら 鎌倉・湘南ガイド MAP』Vol.4、7 月 1 日)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展 清方が過ごした明治の風情」(『かまくら四季のみどころ』7 月号・8 月号、7 月 1 日・8 月 1 日)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展 清方が過ごした明治の風情」(『日本近代文学館』第 254 号、7 月 15 日)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展 清方が過ごした明治の風情」(『鎌倉朝日』第 413 号、8 月 1 日)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展 清方が過ごした明治の風情」(『旅うらら 鎌倉・湘南』(WEB))

### 出品作品

「孤児院」「金色夜叉の絵看板」「新大橋之景」「柳の下に涼む娘」「嫁ぐ人」「寒月」「浅みどり」「寺子屋画帖」「雑司ヶ谷会式」「ほづき」

下絵 「明治の女」「鯛」「川添の家」

口絵 「芝居茶屋の二階『演藝倶楽部』」「A Japanese School-Girl」「山田美妙著『女装の探偵 後編』」「海水浴」

「あさ露『文藝倶楽部』」「ゆふ暮『文藝倶楽部』」「星多き夜『婦人世界』」「小山内薫著『試験』」「田村松魚著『若旦那』」「菊池幽芳著『筆子 初枝の巻』」「松居松葉著『一夜画工』」「新夫人『婦人世界』」「玉づさ」

江見水陰著作口絵 『海水浴』『大幻燈』『花』『大暗礁 前編』『二人女王』『霧姫 前編』

尾崎紅葉著『金色夜叉絵巻』『金色夜叉絵巻 後編』挿絵・校合摺』『金色夜叉絵巻』挿絵下絵」

小杉天外著『魔風恋風』 『魔風恋風 中編』口絵』『魔風恋風』挿絵・校合摺」

小栗風葉著作口絵 『恋女房』『唐撫子』『恋学生』『麗子夫人 後編』『横恋慕』『忘れがたみ』

『白浪女 前編・後編』『沼の女』

『文藝界』口絵 「浴後」「夕涼み」「縁日」

絵はがき 「乳姉妹」「天うつ波」「金色夜叉」「不如帰」「魔風恋風」「湯島詣」

『東京 築地川』(普及版) 「明石町」「伊達家水門」「組立燈籠」「亀井ばし」「鉄砲洲」「船住居」「佃島」「瀬化ける」  
「築地橋」「氷店」「紫陽花の垣」「作者」

「東京一目新圖 明治 30 年(1897) 作・式部瀧三郎 復刻:古地図史料出版株式会社」

団扇 「美人・日傘」「美人・のれん」「美人・朝顔」

## 収蔵品展「大正期の美人画」

大正時代、日本画壇では美人画がもてはやされ、画家も好んで題材にしていた。大正四年(1915)の文展では「美人画室」が設けられたほど、人々の注目を集めた。明治末から大正展覧会への出品を始めた清方は、近世の絵画や当時の文化を研究し、その成果を作品に表した。やがて美人画の第一人者として知られてゆく。

本展覧会では、清方の代表的な作品《朝涼》をはじめ、夫人のかりそめの姿を描いた《襟おしろい》など、大正期の画業を中心に紹介した。



会期 平成 25 年 8 月 30 日(金)～平成 25 年 9 月 23 日(月・祝) (開館日数:23 日)

総入館者数 1,564 人(一日平均:68 人)

### 関連事業

「鎌倉ミュージアムめぐり」スタンプラリー

【開催期間】平成 25 年 4 月 6 日(土)～12 月 1 日(日)

### 関連記事

語り手・宮崎徹、聞き手・後藤繁雄「鎌木清方 移り行く時代のなかで、残された風情」(『発見上手』Vol.6、8 月 12 日)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展 大正期の美人画」(『博物館研究』通号 543 号、8 月 25 日)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展 大正期の美人画」(『読売新聞』地域面、8 月 30 日付)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展 大正期の美人画」(『かまくら四季のみどころ』9 月号、9 月 1 日)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展 大正期の美人画」(『ジェイシイエヌ・プラス』9 月号、9 月 1 日)

「今行くべき美術館 明治～昭和を彩った美人画の巨匠の全貌を知る 鎌倉市鎌木清方記念美術館」(『Qualité』2013 年秋号、9 月 1 日)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展 大正期の美人画」(『読売新聞(夕刊)』9 月 10 日・9 月 17 日付)

「～文化薫る秋の鎌倉～芸術散歩 鎌木清方記念美術館 収蔵品展 大正期の美人画」(『鎌倉霊園ニュース』94 号 恭花、2013 年秋)

### 出品作品

「早春」「ためさるゝ日(右幅)」「朝涼」「夏の思い出」「襟おしろい」「カルメン」「しだれ桜」「水汲」「太夫」「カルメン」「ゆあみ」

下絵 「霽れゆく村雨(小下絵)」「紅雨荘」

スケッチ 「朝涼」(3 点)

柳川春葉著『女一代』 「『女一代』口絵」「『女一代』(小夜子)口絵」「柳川春葉・著『女一代』下巻 口絵」

菊池幽芳著作 「『小ゆき 前編・後編』口絵」「『百合子 前編・中編・後編』口絵、挿絵」

渡辺霞亭著作 「『渦巻』口絵」

『文藝倶楽部』口絵 「いで湯の夕べ」「ひともし頃」「爪紅」「雛壇の下」「海風」「湯治場」「蚊遣の煙」「紅さす女」

『講談雑誌』口絵 「娘ざかり」「秋のおとずれ」「初夢(清方畫譜の一)」「嬌音(清方畫譜の二)」「浮いて鷗の(清方畫譜の三)」「光のどけき(清方畫譜の四)」「九月の海(清方畫譜の九)」「菖蒲湯(清方畫譜の五)」「霖雨の頃(清方畫譜の六)」「盆燈籠(清方畫譜の七)」「戀の湊(清方畫譜の八)」「炬燵(清方畫譜の十二)」

『婦人世界』口絵 「植物園の池」「散るいてふ」「春霞巾を着けた女」

口絵 「小杉天外・著『落花帖』下巻(菊代)」

絵日記 「金沢絵日記」「金沢絵日記 五」「夏の生活」「君ヶ寄漫筆(金沢絵日記の二)」「游心庵漫筆」「絵日記(大正期)」「絵日記(大正 15 年)」

雑誌 「鎌木清方・著『人物画(日本画部)』“中央美術”第 3 卷 11 号」「坂井犀水・著『今年の金鈴社展』“中央美術”第 6 卷 7 号」「『郷土会展覧会』“中央美術”第 2 卷 6 号」

参考資料 『『芸術新潮』P.18 1991 年 3 月号』『『鎌木清方 展覧会出品作・挿絵 図録』 p.24-25』

## 収蔵品展「昭和に描いた明治の風情」

明治 11 年、清方は東京神田に生まれた。青少年期を過ごした東京の街並みは清方の心に深く刻み込まれていた。東京の風情は関東大震災や戦火によって次第に姿を変えていったが、清方はかつての穏やかな明治の面影を懐かしみ、情愛を込めて描いている。《朝夕安居》《女役者糸八》など、昭和に追懐して描いた子どもの頃の明治の情景を紹介した。

会期 平成 25 年 10 月 3 日(木)～平成 25 年 10 月 27 日(日) (開館日数:23 日)  
総入館者数 1,666 人(一日平均:72 人)

### 関連事業

「鎌倉ミュージアムめぐり」スタンプラリー」

【開催期間】平成 25 年 4 月 6 日(土)～12 月 1 日(日)

### 関連記事

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展 昭和に描いた明治の風情」(『広報かまくら』9 月 15 日号)

### 出品作品

「慶喜恭順」「朝夕安居」「女役者糸八」「虫の音」「清流」「ゆかた」「先師の面影」「朝夕安居(詞書)」「狐狗狸」  
「先代萩一・二」「砧」「大蘇芳年」「秋草(寄託作品)」「にござりえ(序文・全 15 図)」  
スケッチ 「萩」  
下絵 「新富町」「菊花節」「たけくらべの美登利」「たけくらべ(霜の朝)」「たけくらべ(つり忍)」「朝夕安居 昼」  
「今様絵詞の会」下絵 「大橋際のむきみや」「金の井の李月夜 庄屋やしき」「金の井の李月夜 主なき大広間」  
「金の井の李月夜 江戸川べり」「築地川みちしほ」下町に灯のとる頃」「麗人影像三」  
『文藝倶楽部』口絵 「あさ露」「よき事きく」「ゆふ暮」「八幡鐘」「夜長」「こすもす」  
『講談雑誌』口絵 「旅愁(清方畫譜の十)」「朝寒(清方畫譜の十一)」  
『苦楽』表紙絵「たけくらべの美登利」「花野」「湯の宿」「菊」「ふた昔」「曇」  
口絵 「とんぼつり」「妙義山」「栗むく女」「菊」「秋ばれ」「秋の山」「思ひ出」「美登利像(鈴木敏也『たけくらべ  
評釈』口絵)」「鳴澤宮の像(『金色夜叉』)」「婦人倶楽部」第十六巻第四号附録」「泉鏡花著『薄紅梅』」  
口絵原画 「たけくらべ(『現代名作集』口絵原画)」



## 特別展「泉鏡花生誕 140 年記念 清方が描いた鏡花の世界」

清方は早くから泉鏡花の熱烈な愛読者であった。挿絵画家を志していた頃、5 歳年上の泉鏡花は新進気鋭の作家として脚光を浴びていた。鏡花の著作に挿絵を描くことを目標に励み、明治 35 年(1902)、ついに『三枚続』の装幀と口絵を描くことができた。その後は挿絵を描くだけでなく鏡花が没するまで深い親交を結んだ。

本特別展では、鏡花生誕 140 年を記念し、清方が描いた鏡花にまつわる作品や秋の風情を主題にした作品など、清方の名作を中心に紹介した。

会期 平成 25 年 10 月 31 日(木)～平成 25 年 12 月 4 日(水)

(開館日数:31 日)

総入館者数 3,963 人(一日平均:127 人)



### 関連事業

「泉鏡花満喫チケット」※イベントチケットを、セット価格 8,800 円で提供(合計一般 9,400 円)

【対象】三越劇場(泉鏡花生誕 140 年 通し狂言『婦系図』)、神奈川近代文学館(生誕 140 年記念 泉鏡花展 一ものがたりの水脈一)、鎌倉市鍋木清方記念美術館(泉鏡花生誕 140 年記念 清方が描いた鏡花の世界)

「泉鏡花生誕 140 年記念 入館料割引」

日本橋三越劇場、神奈川近代文学館、泉鏡花記念館の半券提示で入館料が割引になる相互割引を実施。

美術講演会「清方が魅了された泉鏡花の世界」

【講師】鈴木 啓子氏(宇都宮大学教授) 【日時】平成 25 年 11 月 18 日(月) 午後 1 時 30 分～3 時 30 分

「鎌倉ミュージアムめぐり」スタンプラリー

【開催期間】平成 25 年 4 月 6 日(土)～12 月 1 日(日)

### 関連記事

「泉鏡花生誕 140 年記念 泉鏡花満喫チケット」(『CN プレイガイド(WEB)』)

「鏡花の世界、目で楽しむ」(『日本経済新聞(夕刊)』10 月 21 日付)

その他 10 件

### 出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
遊女	大正 7 年(1918)	絹本着色・屏風(二曲一隻)	169.0×176.0	横浜美術館蔵
妖魚	大正 9 年(1920)	絹本着色・屏風(六曲一隻)	173.0×374.0	福富太郎コレクション
草秋帖	昭和 8 年(1933)	紙本淡彩・画帖	(各)23.9×35.8	個人蔵
本朝二十四孝	昭和 9 年(1934)	絹本着色・軸(三幅対)	96.6×23.6	個人蔵
十種香の段				
八重垣姫 勝頼 濡衣				
瀧野川観楓	昭和 5 年(1930)	絹本着色・軸	53.0×71.0	個人蔵

### 【所蔵品】

「一葉女史の墓」「深沙大王」「雨華庵風流」「妓女像(右幅)未定稿」「ふたつあちさみ」「註文帖 全 13 図」

下絵 「小説家と挿絵画家」「高野聖(今様絵詞の会)」

『新小説』口絵 「起誓文」「舞の袖」「紅雪録 口絵・下絵」「胡蝶之曲 口絵・下絵」「色暦 口絵・校合摺」「楊柳歌」「伊勢之巻 口絵・校合摺」「瓔珞品 校合摺」

『苦楽』「高野聖(表紙絵、下絵)」

泉鏡花関連口絵 「『式部小路』(口絵差上げ)」「『無憂樹』(下絵、口絵)」「『三枚續』(口絵下絵、口絵、表紙装丁、袋装丁、清方愛蔵の『三枚續』)」「『戀女房』(口絵校合摺、口絵)」「『風流線』(口絵、口絵下絵、口絵校合摺、差上げ、校正摺、木版袋装丁、袋装丁下絵、表紙絵、木版表紙装丁校正摺)」「『神鑿』(校合摺、差上げ、口絵)」「『薄紅梅』(口絵、口絵下絵)」「『婦系図』(表紙装丁下絵)」「『婦系図 後編』(口絵校合摺)」

『鏡花選集』(実業之日本社)第 3 巻「婦系図」(箱装丁)、「鏡花全集」(表紙装丁、表紙裏装丁、扉装丁)」

## 収蔵品展 「清方 新春を祝う 一羽子板展一」

江戸の人々は、四季折々の年中行事に並々ならぬ興味と愛着をもっていたと、清方は随筆の中で記している。江戸の生活風習が色濃く残る明治初めに生まれた清方は、先人の楽しみを自然と受け継いだ。そして、季節と人々の織り成す風情は、しばしば作品の主題となり、当時の東京の新春の趣も、日本画や口絵に豊かにあらわされている。

本展覧会では、清方作品にみる新春の風情を、名押絵師・永井周山の押絵羽子板《明治風俗十二月》とともに紹介した。



会期 平成 25 年 12 月 12 日(木)～平成 26 年 1 月 26 日(日)

(開館日数:38 日)

総入館者数 2,503 人(一日平均:65 人)

### 関連事業

「新春お年玉プレゼント」

【開催期間】平成 26 年 1 月 4 日(土)～1 月 17 日(金)

期間中、毎日先着 30 名様に絵はがきをプレゼント

### 関連記事

「鑑木清方記念美術館 清方新春を祝う一羽子板展一」(かまくら四季のみどころ 12 月号、1 月号)

「鑑木清方記念美術館 清方新春を祝う一羽子板展一」(ジェイシーエヌ・プラス 12 月号)

「鑑木清方記念美術館 清方が描く新春の風情 羽子板展を開催中」(タウンニュース 12 月 13 日号)

「鑑木清方記念美術館 新春祝う羽子板展 神奈川・鎌倉で開催」(産経ニュース 12 月 16 日)

「鑑木清方記念美術館 清方新春を祝う一羽子板展一」(読売新聞 12 月 20 日、12 月 24 日、平成 26 年 1 月 7 日、1 月 14 日、1 月 21 日)

「鑑木清方記念美術館 清方新春を祝う一羽子板展一」(広報かまくら 1 月 1 日号)

「鑑木清方記念美術館 清方が描く新春の風情 鎌倉・羽子板も展示」(神奈川新聞平成 26 年 1 月 1 日)

「鑑木清方記念美術館 清方新春を祝う一羽子板展一」(鎌倉朝日平成 26 年 1 月 1 日)

「鑑木清方記念美術館 清方新春を祝う一羽子板展一」(旅うらら鎌倉・湘南ガイドMAP平成 26 年 1 月 8 日)

### 出品作品

「永井周山作・押絵羽子板『明治風俗十二月』」「ためさるゝ日(右幅)」「白梅」「朝涼」「秋宵(※12 月 12 日～12 月 28 日まで展示)」「歳旦(※1 月 4 日～1 月 26 日まで展示)」「芸妓(※1 月 4 日～1 月 26 日まで展示)」「松のうち(※1 月 4 日～1 月 26 日まで展示)」「春や昔」「白梅」「鉢植の梅松(試筆)」「ためさるゝ日(押絵羽子板)」「春の夜のうらみ(押絵羽子板)」「宝珠」「清方意匠 年賀状」

下絵・スケッチ 「雪旦(下絵)」「讃春(小下絵)」「水仙(下絵・スケッチ)」

口絵 「春の人」「春装」「歌留多會の夜『婦人公論』」「虎の門 見立十二姿の内『新小説』」「初雪」「紅梅『女學世界』」「春を待つ『文藝俱樂部』」「雪積む宵(名畫十二月 その二)」「さくら色『婦人世界』」「初東風『大正婦人』」「餅むしろ『文藝俱樂部』」「年始まわり」「年始客」「菊池幽芳著 小ゆき後編」「渡邊霞亭著 渦巻 續編」「初夢(清方画譜の一)『講談雑誌』」「きさらぎ『少女界』」「看梅『少女界』」「都大路『文藝界』」「元日の朝『婦人世界』」

附録 「鑑木清方・宮川春汀合作 歴史雙六『少女界』附録」「新案雙六當世二筋道『文藝俱樂部』附録」「新年附録時代美人風俗双六『文藝俱樂部』附録」「軍国をんな雙六『文藝俱樂部』附録」「鱈崎英朋・鑑木清方合作 新年大附録「松の内」『文藝俱樂部』」「風俗美人画(一)松の内朝日カレンダー 一月東京朝日新聞社」

『苦楽』 「松の内 表紙絵・下絵」「春を待つ 表紙絵・下絵」

風呂敷 「扇子に松・藤と松」「扇面に松と飴や」「松と藤」「扇面に竹と梅」「扇子に橘」「うさぎ」「扇面にあやめ」「凧と梅」「張子の虎とキンカン」

ふくさ 「松皮菱に梅」「氷梅」「梅」

参照資料 『上村松園と鑑木清方』展図録

## 収蔵品展「作品にみる 清方の美意識」

鏗木清方は幼い頃から芝居を好んだ。また、四季の変化に注目し、そのなかで生活する人々の暮らしを描いている。それらの経験や女性の美についてさらなる研鑽を重ねて、美人画家として人気を博した。

本展覧会では「芝居」「四季」「美人」の三つのテーマで、清方が美を追求して描いた作品をご紹介します。

なお、初公開の《女歌舞伎》の下絵をあわせて展示した。



会期 平成 26 年 1 月 31 日(金)～平成 26 年 4 月 13 日(日)(開館日数:62 日)

総入館者数 4,194 人(一日平均:67 人)

### 関連事業

「春休み親子鑑賞」

【期間】平成 26 年 3 月 23 日(日)～平成 26 年 4 月 6 日(日)

期間中、小・中学生及び同伴者 1 名観覧料無料

### 関連記事

「鏗木清方記念美術館 作品に見る清方の美意識」(かまくら四季のみどころ 2 月号、3 月号)

「鏗木清方記念美術館 作品に見る清方の美意識」(ジェイシーエヌ・プラス 2 月号)

「鏗木清方記念美術館 作品に見る清方の美意識」(旅うらら鎌倉・湘南ガイドMAP)

「鏗木清方記念美術館 作品に見る清方の美意識」(広報かまくら 2 月 1 日号)

「鏗木清方記念美術館 作品に見る清方の美意識」(読売新聞 2 月 21 日)

「鏗木清方記念美術館 作品に見る清方の美意識」(ぼど 2 月 21 日)

「鏗木清方記念美術館 企画展・春 作品に見る清方の美意識」(湘南百撰 春号)

### 出品作品

「早春」「秋宵」「嫁ぐ人」「梅蘭芳 天女散華」「舞妓」「桜乙女」「崔承喜 一」「崔承喜 二」「春の立場茶屋(金沢春景)」「道成寺」「早見の藤太」「笠の曲(娘道成寺)」「大和路の或る家」「妓女像 未定稿(双幅)」

下絵 「女歌舞伎」「霽れゆく村雨(下絵・小下絵)」「初冬の花」「崔承喜(全身)」「明治の女」

スケッチ 「桜」「水仙」

『文藝倶楽部』口絵 「伽羅」「小春」「白鳥」「都鳥」「緋桃」「雛壇の下」「紅さす女」「白魚」「爪紅」「梅雨晴」

「そぞろあるき」「汐干狩」「いで湯の夕べ」「湯治場」「蚊遣の煙」「夜長」「あさ露」

「よき事さく」「八幡鐘」「ひともし頃」

『講談世界』口絵 「千代田の大奥」

『講談雑誌』口絵 「光のどけき」「浮いて鷗の(清方畫譜の三)」「菖蒲湯(清方畫譜の五)」

「旅愁(清方畫譜の十)」「朝寒(清方畫譜の十一)」「炬燵(清方畫譜の十二)」

口絵 「沼の女(『新小説』口絵)」「花の蔭(『少女界』口絵)」「藤娘」「上野の花」「おしろ酒」

清方美人畫譜 「濱町河岸の秋」「島田くづし」「初雪」「湖のほとり」「白壁」「午後の海」「春雨の寮」

絵葉書 「霽れゆく村雨」「女歌舞伎」「妓女像」